愛媛県臨床細胞学会会報

第 31 号　2024 No30　version 1.1

目　　次

巻頭言　2

第 32 回 愛媛県臨床細胞学会学術集会 プログラム/会場/抄録集　4

令和 3 年度･4 年度 愛媛県臨床細胞学会奨励賞　14

2023 年度細胞診検査士･細胞診専門医合格者　16

令和 5 年度実施事業および支部活動　17

令和 5 年度愛媛県臨床細胞学会役員会報告　18

令和 5 年度愛媛県臨床細胞学会総会記事　20

令和 4 年度会計報告　22

愛媛県臨床細胞学会 会則　23

愛媛県臨床細胞学会 役員会名簿　25

愛媛県臨床細胞学会 会員名簿　26

編集後記　28

愛媛県臨床細胞学会

発行日　令和 6 年 4 月 14 日

巻　　頭　　言 ver 2.0

愛媛県臨床細胞学会会長　寺本典弘

愛媛県臨床細胞学会会報・第32号(version2.0)を発刊しました。

私事ですが、3月には60歳を迎え、還暦行事、研究班の報告のための仕事、その他年度末の仕事、送別会、病理学会、寄る年波などの用事が重なり、予定より一月ほど送れてしまいました。用事に関しては次年度減るかもしれませんが、年波に関しては、寄せて返すわけもなく・・ほぼ単独で作成してきた会報ですが、次号からは手分けして行おうと思います。

昨年は学術集会を夏冬の 2 回行いました。コロナ禍も終わり、スライドセミナーと一般講演を軸とした夏の学術集会を行い、その後は久しぶりにビアホールで情報交換会を開けました。今回も学術集会後新年会を行いました。夏の学術集会は令和6年9月7日(土)予定ですが、その後もまたビアガーデンを開催したいと思っています。

また5月30日は松山細胞診(web)が開催されます。松山近辺以外の方も視聴出来ますのでご参加ください。また、ビアガーデンの話が先になりましたが、夏の学術集会はスライドカンファレンスが主体です。今から症例の準備をお願いします。

先の話ですが2025年に中四連合会が愛媛県で開かれます。その際には一般演題はなしで、教育講演・特別講演16題程度だけのプログラムを予定しています。今から準備をよろしくお願いします。愛媛県臨床細胞学会は若い方々の活躍を期待します。本会の益々の発展のため，引き続き会員皆さんのご協力をお願い申し上げます。

会員の皆様との連絡のため，今後もメーリングリスト，ホームページを活用してください。

HP URL http://cyehime.webnode.jp/

（令和6年1月16日）

第 32 回愛媛県臨床細胞学会学術集会

日時　令和 6 年 1 月 27 日(土)　15:30～

会場　四国がんセンター研修室

－　プログラム－

Ⅰ　開会の辞　(15：30 ～　15:35)

愛媛県臨床細胞学会会長　寺本典弘

Ⅱ　特別講演　　(15：35 ～ 16:35)

座長　四国がんセンター婦人科　竹原 和宏

『卵巣癌診断のための細胞診の役割

～原発、転移の鑑別・組織型の推定～』

弘前大学大学院医学研究科産科婦人科学講座
教授　横山良仁
ｐｄｆはこちら
(中外製薬株式会社共催)

Ⅲ　シンポジウム　(16:40～18:00)

座長：　愛媛大学大学院医学系研究科　解析病理学　倉田　美恵
愛媛大学医学部附属病院　病理診断科･病理部　近藤　拓弥

『LBC update 2024』

1) **愛媛県における液状化細胞診の普及状況とその活用法 -アンケート調査から-**
愛媛大学大学院医学系研究科　解析病理学　倉田　美恵

2) **BD サイトリッチ法における ICC 標本作製の検討**

愛媛大学医学部附属病院　病理診断科･病理部　近藤　拓弥

3）教育講演　LBC の基本的概念と、細胞像の見方

神戸常磐大学保健科学部　医療検査学科　畠　榮

pdfはこちら

Ⅳ　令和 3 年愛媛県臨床細胞学会総会　（18:00 ～ 18：10）

Ⅵ　開会の辞　（18：10）

参加者へのご案内

会場

開場　15：00

アクセス

四国がんセンター　本館三階　中央エレベーターで３階へ上がってください

当日は土曜日なので**黒矢印**の時間外出入り口を利用してください

発熱者その他の体調の悪い方、濃厚接触者・COVID19 陽性者・エボラウィルス感染者・どうしても行きたくない方は参加をご遠慮ください。

会場は飲食禁止です。
無料駐車券をお渡しします。必要な方は受付時に申し出てください

会費

愛媛県臨床細胞学会費	1000 円
中国四国連合会会費	1000 円
愛媛県細胞検査士会費	2000 円

まだ払っていない方は以下の口座に、会員の名義で振り込んでください。
その後、タイトルを”愛媛県臨床細胞学会会費・振り込み”とし、（cytology@shikoku.cc　愛媛県臨床細胞学会事務局）までメールする。 数人分を同時に振り込むときにはメールに全員の名前を記載してください

振り込み口座

愛媛銀行　県立中央病院出張所　店番　６０
普通口座　３２３５００２
名義　愛媛県臨床細胞学会（エヒメケンリンショウサイボウガッカイ）

獲得ポイント　（予定）

JSC 単位	10
IAC 単位	3

－ 抄録－

特別講演

卵巣癌診断のための細胞診の役割～原発、転移の鑑別・組織型の推定～

弘前大学大学院医学研究科産科婦人科学講座教授　横山良仁

卵巣癌や卵管癌、腹膜癌では、経卵管的な悪性細胞の混入により、子宮頸部や内膜細胞診異常を示すことがある。2011 年から 2019 年の間に当科で治療した卵巣癌、卵管癌、原発性腹膜癌 191 例において子宮頸部及び内膜細胞診の陽性率を調べた。頸部・内膜細胞診のどちらかが陽性であったのは 39 例(20.4%)であった。その内訳は、両方とも陽性:14 例(7.3%)、頸部細胞診のみ陽性:4 例(2.1%)、内膜細胞診のみ陽性:21 例(11%)。39 例の平均年齢は 59.7 歳、進行期は I 期 2 例(5.1%)、II 期 1 例(2.6%)、III 期 28 例(71.8%)、IV 期 8 例(20.5%)と 92%が進行癌であった。組織型は漿液性癌が 22 例(56.4%)であった。

同時期に、青森県総合健診センターの子宮頸部細胞診検体で異常と診断された中での卵巣癌症例について検討した。この対象は何らかの症状があり、診療所・病院を受診した臨床検体である。子宮頸部細胞診総検体 29,307 件中細胞診異常は 332 件(1.1%)であった。そのうち卵巣癌であった症例は 13 例(0.04%)であった。また同時期に青森県総合健診センターで対策型検診を行った子宮頸部細胞診の総検体数 389,090 件のうち子宮頸部細胞診異常を契機に卵巣癌が発見されたのは 2 例(0.0005%)であった。

卵巣腫瘍での、腹腔細胞診の役割は大きい。卵巣腫瘤が悪性かどうかの診断とともに、免疫染色の併用で原発か転移かの鑑別が可能である。また手術不能な PS の場合、腹水細胞診で悪性を確認し NAC→IDS という次善の策を講じることができる。

卵巣腫瘍の場合、術中迅速病理で良悪性を診断し術式を決定する場合がある。しかし、悪性と診断できるが組織型の確定まで至る例は多くはない。若年者で化学療法が期待できる腫瘍なのかどうか、すなわち妊孕性温存手術の選択が可能なのかどうは術中の究極の選択となる。その場合、捺印細胞診の併用が非常に有用である。当院では全例に捺印細胞診を併用した迅速診断を行なっている。その有用性について紹介したい。

シンポジウム

『LBC update 2024』

愛媛大学大学院医学系研究科　解析病理学　倉田　美恵
愛媛大学医学部附属病院　病理診断科・病理部　近藤　拓弥

シンポジウムの趣旨について

液状化検体細胞診（liquid based cytology: LBC）は 1996 年にアメリカ FDA にて婦人科がん検診の領域において認可されて以来約 30 年、婦人科領域にとどまらず多臓器の検体に対し使用され細胞診の標準化と精度向上に貢献し続けています。日本国内でも 2012 年に保険収載後その導入率は年々増加し不可欠な検査方法となっています。当学会では LBC 導入初期の 2014 年にシンポジウムとしてとりあげ、各施設における運用状況を共有しました。それから10年経った現時点のリアルな LBC の使用感を利点・問題点を中心に皆様と共有し、更なる細胞診の精度と効率の上昇を目指して、LBC update 2024 と題し本シンポジウムを企画いたしました。

教育講演に日本の LBC の第一人者であられる畠榮先生をお招きし、LBC の基礎と実践について幅広くご講演いただく予定です。

本シンポジウムが皆様の明日からの診療の一助となれば幸いです。

1) 愛媛県における液状化細胞診の普及状況とその活用法 –アンケート調査から– pdfへ

愛媛大学大学院医学系研究科 解析病理学 [1], 愛媛大学医学部附属病院病理部[2]
倉田 美恵[1]、近藤 拓弥[2]、片山 英司[2]、林 愛莉実,[2] 吉田 拓海[2]、今井美奈[2]、明賀 さつき[2]、北澤理子[2]、増本純也[1]

目的:愛媛県内の協力施設における液状化細胞診(LBC)の導入状況を調査し、以前愛媛県下で行われたアンケートと、2021 年に行われた全国アンケート結果とを比較検討し、2024 年における愛媛県での運用状況を明らかにする。
方法:愛媛県臨床細胞学会に登録された細胞検査士が所属する 19 施設に対し、メーリングリストにてアンケートへの協力を要請した。質問項目は Google Form で作成し、自由記述項目を含め 17 項目の質問を行った。うち 12 施設・14 人から回答を得た(施設回収率 63.2%)。内訳は健診センター1、研究機関 1、大学病院 1、一般病院 9 だった。
結果:LBC は 12 施設すべてで実施されていて、婦人科検体で普及していた。婦人科以外の検体にも実施している施設は 10 施設、うち尿検体が最も多く7施設で前回調査よりも1施設増加した。LBC の使用目的は全施設でパパニコロウ染色、6 施設が免疫染色にも使用していた。残余検体からセルブロックを作成する施設は 9 施設であり検体の有効利用が行われていた。従来法と比して LBC が優れていると感じる点は集細胞性に優れる、乾燥変性が少ない、細胞の重なりが少ない、鏡検効率がよい、などが挙げられた一方、劣っていると感じる点は細胞形態が変わる、背景が消失するため粘液や炎症が読みづらい、費用がかかる、など 2014 年とほぼ同じ項目が挙げられた。
結論:LBC は愛媛県下で婦人科領域以外の臓器にも広く適用され始めている。今後も LBC の経験と知見を重ね、従来法と併用することでより確実な細胞診に貢献していけるものと考える。

2)　BD サイトリッチ ™ 法における ICC 標本作製の検討　pdfへ

愛媛大学医学部附属病院　病理診断科・病理部　近藤拓弥

液状化検体細胞診(Liquid-based cytology ; 以下 LBC)は，従来法と比較して乾燥を原因とする不適正標本の減少や検鏡範囲が狭くなることによるスクリーニング時間の短縮，複数枚の標本作製や残余検体からの標本再作製が可能であることなど，優れた標本作製法として様々な領域に応用されている．その中でも，BD 社の LBC 法は用手法から全自動装置まで検体数や施設の状況に合わせて運用可能な点が大きな特徴であり，溶血作用とタンパク可溶化作用を有する BD サイトリッチ ™ レッド保存液を用いることで，きれいな背景と高い腫瘍細胞出現率が得られるという特性も備えている．しかしながら，血液細胞などの狭小な胞体を有する細胞は脆弱であるため，BD サイトリッチ ™ 法では LBC 塗抹時に細胞が挫滅してしまう現象が起きることがある．今回我々は，BD サイトリッチ ™ 法において細胞変性の少ない免疫細胞化学(immunocytochemistry ; 以下 ICC)標本を作製するための検討を行ったので報告する．

対象は健常人の末梢血から採取したバフィーコートを含む細胞浮遊液で，LBC 標本を作製後，ICC 染色を施行した．

検討内容は，①固定時間が細胞形態に及ぼす影響，②細胞固定後の薬液が細胞形態に及ぼす影響，③固定時間の違いによる ICC 染色への影響とした．BD サイトリッチ ™ レッド保存液にて 2 時間以上固定を行うことにより，細胞変性の少ない標本作製が可能であった．また，当院では基本的に希釈済み(Ready-to-use ; 以下 RTU)試薬を使用しているが，ICC 染色に関してはそのまま用いると過染傾向がありコントラストが悪かったため，RTU 試薬を抗体希釈液にて二倍希釈することでセルブロック標本と比較しても遜色ない染色性が担保された．しかしながら，本条件は当院での最適解であるため，LBC 標本にて ICC 染色を施行する際には一次抗体の希釈倍率や DAB の発色時間などを事前に検討する必要がある．

3) 教育講演　LBC の基本的概念と，細胞像の見方　pdf へ

神戸常盤大学保健科学部医療検査学科客員教授　　畠　榮

臨床細胞診断は組織診断と共に診断病理学の柱である．従来，ともすれば細胞診断は組織診断の補助的診断と位置付けられてきた．しかし，穿刺吸引細胞診の普及と共に細胞診断の臨床的意義は大きく変革し，医療の中の重要な診断技術としての立場を確立している．

子宮頸部細胞診が行われ始めてから半世紀になるが，細胞診標本作製法は施設間で異なり，標本の塗抹から固定まで臨床サイドに委ねられているため，標本作製に関しての標準化や精度保障は担保されていないのが現状である．そのようななかで液状化検体細胞診（Liquid-based cytology: LBC)法が行われるようになった歴史的背景として，米国で 1980 年代後半，細胞診断の精度について社会問題となったことが挙げられる．このことが発端となり，ベセスダシステムが発表され，細胞診断の精度向上を図るため HPV 検査の併用，スクリーニングの自動化，液状処理検体の推進などの改善策が講じられた．

LBC 法は婦人科領域での不適正検体回避への対策を目的の一つとして開発された方法で，現在では多くの領域に使用されつつあるが，LBC 法で作製した標本は従来法と異なる細胞の見方が求められている．そこで従来法での細胞像の見方を基本に，LBC 法としての見方をも習熟する必要がある．

一般的に LBC 法では細胞の回収率が増加し，乾燥や細胞の挫滅は少なく，採取した細胞を圧挫しないため三次元構造が保たれ，組織構築を反映している．しかし，背景の壊死物質や粘液の減少傾向ならびに個々の細胞形態では核の濃染傾向や細胞質の重厚感が認められるなどの報告もある．この様な LBC 法による細胞像の特徴を理解した上で用いれば施設間差のない適切な標本を作製することができ診断精度向上に有用と考えられる．

今回は LBC の基本的概念と，細胞像の見方に関し乳腺穿刺吸引細胞診への LBC 法の応用として「組織構築からみた細胞所見の読み方」について従来法（合わせ法）と LBC 法を用いた標本作製の違いによる背景所見や出現細胞の相違点について述べ，組織構築からみた低乳頭状構造，篩状構造などの三次元的な構造や血管結合織を茎とする乳頭状非浸潤性乳管癌や乳管内乳頭腫の相違点などの読み方を中心に概説する．

また時間があれば，LBC 標本でなければ観察することが困難な血管間質の形態と診断的意義に関し概要を報告する．

奨励会受賞　令和五年度は募集なし

新制度・令和３年度愛媛県臨床細胞学会学術奨励賞受賞者

近藤 拓弥　　愛媛大学医学部附属病院・検査部
玉井佑弥　　愛媛県立中央病院　検査部
兵頭直樹　　愛媛県立中央病院　検査部
細川翔　　愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科

５０音順

2023年度細胞診検査士合格者

中島賢祥	済生会今治病院　検査部
若藤　諒	松山赤十字病院　病理診断科部

令和５年度活動記録

令和５年度松山細胞診（webweb）

開催なし

第 31 回愛媛県臨床細胞学会学術集会

2023 年 1 月 28 日(土)

愛媛県臨床細胞学会　第一回夏期学術集会

2023 年 7 月 22 日(土)

子宮の日啓発活動 Love49

日時：　2023 年　　5 月　　28 日　　12 時～　　15 時

場所：いよてつ高島屋前坊ちゃん広場

広告チラシ(衛生用品含む)を 700 部配布出来ました。18 名が参加した。

令和５年度愛媛県臨床細胞学会役員会議事録

日時 令和６年 1 月 24 日 18:00 web
出席者:寺本典弘、和泉元 雅子、岡田 正則、北澤 理子、木藤 克己、佐伯 勇輔、佐伯 健二、竹原 和宏、則松 良明、飛田 陽、松元 隆、山本 珠美(敬称略)
進行:寺本

議題

1. 1 月 24 日時点の会員数 119 名(名誉会員 2 名、功労会員 4 名)
   中国四国連合会の会費が会員あたり 1000 円なので、会費納入や活動のない会員に関しては除籍することに賛成多数であった。総会に諮って会則に記載する。(また一部が現状に合わないので改変する。“当日会員“と”就職“、”在住“など)

2. 会計報告(令和 4 年度)
   - 会計監査され了承された
3. 第32 回学術集会
   - 令和 6 年 1 月 27 日、四国がんセンター研修室にて現地開催
   - 会費、 愛媛県臨床細胞学会会費 1000 円、中四連合会 1000 円、検査士会費 2000 円。今年度から検査士会費も徴収する。
   - 特別講演・シンポジウムについてはプログラムの通り
   - 研修単位 CT(JSC)10 点, CT(IAC)3 点

4. 2024 -5 年(2024 年度)の支部総会・学術講演会, 特別講演について
   - 次回は夏/9 月、四国がんセンター研修室で現地開催予定
   - 1 一般演題、2 スライドカンファレンス、3 特別講演で構成。
     - 日程が決まり次第募集開始
   - 特別講演講師は検査士から選定する
   - 一般演題は、症例報告については細胞診画像込みで抄録を作成する。
   - 候補日: 9 月の三連休にからなまい土曜日、7 日、28 日 。(9／7 に決定)
   - 32回大会(2025 年)32回大会は1月はじめにしたい。
     - 特別講師は病理関係の医師(未定)
     - 32回大会シンポジウムは順番で行くと県中(県中→四国がん→松山赤十字病院)
   - 25年夏の大会は中四連合会愛媛大会があるため行わない。
5. 中国四国連合会支部長会報告 (山本・四国がんセンター)
   - Home page 公開予定。中四連合会名称について議論あり。
   - 会計報告(後に連合会から公開予定)
6. **中国四国連合会学術集会**
   - 25 年に愛媛県で開催予定。24 年は高松(7／27)。
   - 愛媛県大会では、教育講演/特別講演のみ 16 題程度を想定。

- 外部講師：三上芳喜（熊本大学）、市原真（札幌厚生病院）
- 会長講演：検診について
  - 中四各支部から一人以上教育講演を出してもらう⇒8 演題、愛媛県から 6 程度。病理医1名、婦人科医1名、検査技師4名（奨励賞受賞者から2～3題）
  - 講師は教育講演・特別講演を全国大会であまりしてない人、あるいはしている人の場合は普段してない題目。

7. 愛媛県臨床細胞学会奨励賞について。
   - 新たな候補者を1～2名募集
8. 会長選挙・役員会メンバー：
   - 会長立候補がなかったので、25年度まで現会長のままやらざるを得ない。そろそろ次は誰がやるか考えておきたい。
   - 役員会の賛成多数で寺本典弘が役員会から次期会長として推薦されることになった。総会で承認があれば、次期会長となる。
   - 24年度からの役員を決める必要がある。交代希望は現状届いていないので全員留任する。
   - 若手の20代役員、30代役員を一人ずつ決めたい。 これについては総会でアナウンス後にしようと思う。リストアップを
   - 役員の担当を決める。愛媛県臨床検査着士会には役員の分担があるので、対する部署に当会医師会員が協力するという形で運用を考える
9. 会誌。

学会時の抄録の載ったバージョンを 1.0 とし、年度終了時に最終版を上げる。2024 年 4 月目処

愛媛県臨床細胞学会総会記録

令和５年度愛媛県臨床細胞学会総会記録

日時 令和６年 1 月27日
参加者:現地参加者78名
進行:寺本典弘

議題

1. 1 月 24 日時点の会員数 119 名(名誉会員 2 名、功労会員 4 名)
   中国四国連合会の会費が会員あたり 1000 円なので、会費納入や活動のない会員に関しては除籍することに賛成多数であった。総会に諮って会則に記載する。(また一部が現状に合わないので改変する。“当日会員“と”就職“、”在住“など)
   会場より、事情がある人には配慮をという発言があった。
   - 幽霊会員のために無駄な連合会会費払うことをやめるための規定なので、厳しく行うことはない。ただし徴収は厳しく行う。(寺本)

2. 会計報告(令和 4 年度)
   - 会計監査され了承された リンク
3. 第32 回学術集会
   - 令和 6 年 1 月 27 日、四国がんセンター研修室にて現地開催
   - 会費、 愛媛県臨床細胞学会会費 1000 円、中四連合会 1000 円、検査士会費 2000 円。今年度から検査士会費も徴収する。
   - 特別講演・シンポジウムについてはプログラムの通り
   - 研修単位 CT(JSC)10 点, CT(IAC)3 点 ・有料参加者 78 名

4. 2024 -5 年(2024 年度)の支部総会・学術講演会, 特別講演について
   - 次回は夏/9 月、四国がんセンター研修室で現地開催予定
     - 追記 9月7日四国がんセンター研修室にて開催決定
   - 1 一般演題、2 スライドカンファレンス、3 特別講演で構成。
     - 募集開始
   - 特別講演講師は検査士から選定する
   - 一般演題は、症例報告については細胞診画像込みで抄録を作成する。
   - 候補日: 9 月の三連休にからなまい土曜日、7 日、28 日 。
   - 32回大会(2025 年)32回大会は1月はじめにしたい。
     - 特別講師は病理関係の医師(未定)
     - 32回大会シンポジウムは順番で行くと県中(県中→四国がん→松山赤十字病院)
   - 25年夏の大会は中四連合会愛媛大会があるため行わない。
5. 中国四国連合会支部長会報告 (山本・四国がんセンター)

- Home page 公開予定。中四連合会名称について議論あり。
- 会計報告（後に連合会から公開予定）

6. **中国四国連合会学術集会**
   - 25 年に愛媛県で開催予定（2025年7月26日・27日）。24 年は高松（7／27）。
   - 愛媛県大会では、教育講演/特別講演のみ 16 題程度を想定。
     - 外部講師：三上芳喜（熊本大学）、市原真（札幌厚生病院）
     - 会長講演：検診について
       - 中四各支部から一人以上教育講演を出してもらう⇒8 演題、愛媛県から 6 程度。病理医1名、婦人科医1名、検査技師4名（奨励賞受賞者から2～3題）
       - 講師は教育講演・特別講演を全国大会であまりしてない人、あるいはしている人の場合は普段してない題目。
7. 愛媛県臨床細胞学会奨励賞について。
   - 新たな候補者を1～2名募集
8. 会長選挙・役員会メンバー：
   - 役員会の賛成多数で寺本典弘が役員会から次期会長として推薦されることになった。総会で満場一致で会長に選任された。
   - 25年度まで現会長のまま。そろそろ次は誰がやるか考えておきたい（寺本）。
   - 24年度からの役員を決める必要がある。交代希望は現状届いていないので全員留任する。満場一致で承認された・
   - 若手の20代役員、30代役員を一人ずつ決めたい。 これについては総会でアナウンス後にリストアップを行う
   - 役員の担当を決める。愛媛県臨床検査着士会には役員の分担があるので、対する部署に当会医師会員が協力するという形で運用を考える
9. 会誌最終 Version は四月公開予定 （この Page）

会計報告
令和４年度（R4.4.1～R5.3.31）

令和４年度会計報告(R4.4.1～R5.3.31)

1.収入の部

前年度繰越金		648,785	
細胞診センター運営指導費(医師会から)	200,000		
利子(R4.9.11 R5.3.12)	6		
令和４年度会費	207,000		
令和４年度細胞検査士会費*	0		
小計		407,006	
合計			1,055,791

2.支出の部

日本臨床細胞学会中国四国連合会	107,550		
第31回愛媛県臨床細胞学会			
講師謝礼(森井先生・大阪大学)	130,110		
愛媛県細胞検査士会振込*		0	
愛媛県臨床細胞学会会報　なし		0	
小計		237,660	
次年度繰越金		818,131	
合計			1,055,791

単位:円

*コロナ禍により徴収せず

会計監査　2024年1月25日

愛媛県立中央病院 病理
不藤 克己

愛媛県臨床細胞学会会則

第１章　名称と事務局

第１条　本会は愛媛県臨床細胞学会と称する．

第２条　本会の事務局は四国がんセンター病理科内におく．

第２章　目的と事業

第３条　本会は愛媛県における臨床細胞学の発展と普及を図ることを目的とする．

第４条　本会は前条の目的を達成するために，次の事業を行う．

1. 学術集会の開催.
2. その他本会の目的達成のため必要事業.

第３章　会員

第５条　愛媛県の細胞診関係者が入会資格を持つ．ただし，入会後定期的な会費の納入がない場合資格を失う．

第６条　会員は本会が開催する総会または集会に出席して発言して，業績を発表することができる．

第７条　本会の趣旨に賛同し本会を賛助する目的で特別会費を納入する個入または法人を賛助会員とする．満 70 歳を越えた会員は，名誉会員または功労会員として中国四国連合会に推薦する

第４章　役員

第８条　本会に下記の役員をおく．

会長　１名　　幹事　若干名

第９条　会長は愛媛県内に就職する日本臨床細胞学会理事，評議員および指導医のうちより選出する．

第 10 条　幹事は会長より委嘱する．

第 11 条　会長は随時幹事会を召集することができる．

第 12 条　会長は本会の活動状況について日本臨床細胞学会会長に年１回文書で報告しなければならない．

第 13 条　役員の任期は３年とする．ただし再任は妨げない．

第５章　会議と集会

第 14 条　本会は年１回，本会総会を開催する．

第 15 条　学術集会は愛媛県臨床細胞学会学術集会と呼称し，年１回以上開催する．学術集会の集会長ならびに開催場所は幹事会において協議決定する．

第６章　会計

第 16 条　本会の経費は，会費および寄付金をもって当てる．

第 17 条　会費の額および納入方法は，幹事会にはかって会長が定める．名誉会員，功労会員は会費の納入を免除する

第 18 条　本会の会計は担当幹事が管理する．

第 19 条　本会の会計年度は毎年 4 月 1 日にはじまり，翌年 3 月 31 日に終わる．

第 7 章　会則の変更

第 20 条　会則の変更は幹事会で討論し，総会の承認を得て行う．

付則

本会則は昭和 60 年 5 月 31 日から実施する．

本会則は平成 28 年 1 月 31 日に変更した．

本会則は平成 31 年 1 月 31 日に変更した

本会則は２０２１年４月１４日に変更した

本会則は２０２4 年 1 月 27 日に変更した。

役員会名簿　(2024～25 年度)

会長	寺本　典弘	四国がんセンター　病理科	
幹事	和泉元　雅子	松山市民病院	
	大城　由美	松山赤十字病院　病理診断科	★
	岡田　正則	住友別子病院　病理診断科	
	北澤　理子	愛媛大学医学部附属病院　病理診断科	
	木藤　克己	愛媛県立中央病院　病理	
	佐伯　勇輔	西条中央病院　中央検査部	★★
	佐伯　健二	愛媛県総合保健協会	
	竹原　和宏	四国がんセンター　婦人科	
	則松　良明	愛媛県立医療技術大学	
	飛田　陽	松山市民病院	
	松影　昭一	市立宇和島病院　病理診断科	
	松元　　隆	愛媛大学医学部　産婦人科	
	山本　珠美	四国がんセンター　臨床検査科	

以上 14 名（50 音順）　★：会計幹事、★★：愛媛県細胞検査士会　代表

愛媛県臨床細胞学会会員名簿　(20240331 まで)

名誉会員　　(2 名)

氏　名	所　　属
森脇　昭介	
野河　孝充	

功労会員　　(4 名)

氏　名	所　　属
渡辺　克一	いよ産婦人科医院
植田　規史	済生会西条病院　病理診断科
大西　博三	愛媛労災病院　病理
日野　典文	

細胞診指導医　　(20 名)

氏　名	所　　属
竹原　和宏	四国がんセンター　婦人科
大亀　真一	四国がんセンター　婦人科
横山　貴紀	四国がんセンター　婦人科
藤本　悦子	四国がんセンター　婦人科
寺本　典弘	四国がんセンター　病理科
高畑　浩之	四国がんセンター　病理科
北澤　荘平	愛媛大学医学部　分子病理
北澤　理子	愛媛大学医学部附属病院　病理診断科
増本　純也	愛媛大学医学部　解析病理
倉田　美恵	愛媛大学医学部　解析病理
松元　　隆	愛媛大学医学部　産婦人科
宇佐美知香	愛媛大学医学部　産婦人科
山上啓太郎	新居浜協立病院
松影　昭一	市立宇和島病院　病理診断科
飛田　陽	松山市民病院　病理
大城　由美	松山赤十字病院　病理診断科
水野　洋輔	松山赤十字病院　病理診断科
杉田　敦郎	愛媛県立中央病院　病理
木藤　克己	愛媛県立中央病院　病理
前田　智治	愛媛県立中央病院　病理
久野　美子	久野内科

医師　　(6 名)

氏　名	所　　属
中西　　護	市立宇和島病院　病理診断科
谷脇　真潮	愛媛大学医学部附属病院　病理診断科
森川紳之祐	愛媛大学医学部　解析病理
日比野佑美	四国がんセンター　婦人科
大野　輝之	愛媛大学医学部附属病院 病理診断科
住田 智志	愛媛県立中央病院 病理診断科

細胞検査士　(75 名)

氏　名	
伊能　公代	愛媛県総合保健協会　病理
金子真由美	愛媛県総合保健協会　病理
佐伯　健二	愛媛県総合保健協会　病理
高橋　若菜	愛媛県総合保健協会　病理
深田　千尋	愛媛県総合保健協会　病理
水野　和江	愛媛県総合保健協会　病理
山口　美紀	愛媛県総合保健協会　病理
藤田　泰吏	愛媛県総合保健協会　病理
上田　翔子	愛媛県総合保健協会　病理
浅海　朋恵	愛媛県総合保健協会　病理
風谷　早紀	愛媛県総合保健協会　病理
窪田　裕美	松山赤十字病院　病理診断科部
坂本　真吾	松山赤十字病院　病理診断科部
高石　治彦	松山赤十字病院　病理診断科部
三好　陽子	松山赤十字病院　病理診断科部
高島香菜子	松山赤十字病院　病理診断科部
松本　優衣	松山赤十字病院　病理診断科部
榎　　美奈	松山赤十字病院　病理診断科部
山本　珠美	四国がんセンター　臨床検査科
田母神佐智子	四国がんセンター　臨床検査科
田中　慎一	川崎医療福祉大学　医療技術学部　臨床検査学科
岡本　奈美	四国がんセンター　臨床検査科
楠　真奈美	四国がんセンター　臨床検査科
井上　信行	愛媛県立中央病院　検査部
加藤真紀子	愛媛県立中央病院　検査部
木下　幸正	愛媛県立中央病院　検査部

森　理恵　愛媛県立中央病院　検査部
高石　裕子　愛媛県立中央病院　検査部
尾崎　萌　愛媛県立中央病院　検査部
越智　景子　愛媛県立中央病院　検査部
和田　裕貴　愛媛県立中央病院　検査部
髙石　修　愛媛県立中央病院　検査部
兵頭　直樹　愛媛県立中央病院　検査部
亀岡　美咲　愛媛県立中央病院　検査部
松家　由紀　松山市民病院　病理
和泉元雅子　松山市民病院　病理
湊　憲武　松山市民病院　病理
則松　良明　愛媛県立医療技術大学
細川　翔　愛媛県立医療技術大学
今井　美奈　愛媛大学医学部附属病院　病理診断科
片山　英司　愛媛大学医学部附属病院　病理診断科
近藤　拓弥　愛媛大学医学部附属病院　病理診断科
明賀さつき　愛媛大学医学部附属病院　病理診断科
橋本真理子　愛媛大学医学部　分子病理
三好　里佳　済生会今治病院　検査科
矢野　好人　済生会今治病院　検査科
菅　恭弘　市立宇和島病院　病理診断科
岡田　正則　住友別子病院　病理診断科
河口　本子　住友別子病院　病理診断科
眞鍋　章子　住友別子病院　病理診断科
堀内啓太郎　済生会西条病院
此上　武典　市立八幡浜総合病院
一色　順子　社会医療法人真泉会　松山まどんな病院
井上由紀江　愛媛労災病院　検査科
佐伯　勇輔　西条中央病院　中央検査部
馬木　和則　今治市医師会診療所
原　正樹　JCHO 宇和島病院
佐伯　逸子　つばきウイメンズクリニック
石田　茂己　愛媛メディカルラボラトリー　宇和島ラボ
古本　好江　自宅
清水美由紀
水野　彩乃　自宅
渡部　菜穂　公立学校共済四国中央病院
安藤　早姫　愛媛医療センター
山内 直樹　市立宇和島病院 病理診断科
佐伯 由美　愛媛医療センター
佐々木恵美　十全総合病院
岡崎　恭介　松山市民病院　病理検査室
下元　隆史　四国がんセンター　臨床検査科
若藤　諒　松山赤十字病院　病理診断科部
岡崎　恭介　松山市民病院　病理検査室
太田さやか　愛媛県総合保健協会　病理
山本 雄大　四国がんセンタ 臨床検査科
下元　隆史　四国がんセンタ 臨床検査科
那須久留実　市立宇和島病院
渡邊 桃花　愛媛大学医学部附属病院 検査部
中島　賢祥　済生会今治病院　検査科

臨床検査技師　（ 12 名）

氏　名	所　属
相原　里江	愛媛県総合保健協会　病理
門屋　孝志	松山赤十字病院　病理診断科部
池田　みか	松山赤十字病院　病理診断科部
薬師寺孝徳	市立宇和島病院　病理診断科
玉井佑弥	愛媛県立中央病院　検査部
菅涼太朗	住友別子病院　病理診断科
吉田　拓海	愛媛大学医学部附属病院　病理診断科
山村　展央	市立八幡浜総合病院
林 愛莉実	愛媛大学医学部附属病院　病理部
横田　小夏	四国がんセンター　臨床検査科　病理
白石　麻伊	市立宇和島病院
白方　優衣	公益財団法人　愛媛県総合保健協会

事務局

飯野　美咲	四国がんセンター　臨床検査科

-

編　集　後　記（version 2.0）

前回から紙での発刊をやめ pdf としました。デジタル化されていない情報に価値はありません。デジタル化すると、自由に追加して途中で発刊できるなどの良い点があります。何回かに分けて提供してきた第 31 号はこれにて完成です。今回は３回目ですが、ほぼ全部自分で作成しました。大変でした。『だいたい中身はわかりましたので、今後は手分けしてデジタルの強みを生かしたものを作っていきたいと思います』と言うのは前号の文末ですが次号は如何に？次回夏の学会は抄録集のみの発刊になります。

と、ここまでは同じ　以下次号へ

（寺本典弘　記）

愛媛臨床細胞学会会報　第 31 号

令和６年４月 15 日　version 2.0

編集　愛媛県臨床細胞学会会長　寺本典弘
四国がんセンター病理科
TEL：089-999-1111
E-mail：寺本（←ローマ字で）@shikoku.cc(←四国.CancerCenter)

愛媛県臨床細胞学会へのメールは
cytology のあと@shikoku.cc です。　“のあと”は削除